

審議会も「場所を再検討すべきとの意見あり」と答申

こども病院の人工島移転はきっぱり中止を

日本共産党 中山いくみ市議が追及

こども病院の人工島移転に反対する世論が大きくひろがっています。病院事業運営審議会の答申には「整備場所については、再検討すべきとの意見があった」との留意事項が盛り込まれました。

中山いくみ市議は6月13日本会議で、人工島移転を強行しようとしている吉田市長を批判し、「きっぱり中止せよ」と迫りました。

中山市議は、審議会答申の内容をふまえ、「将来的に敷地の拡張は必要なく、現地や周辺の候補地でも広さの条件はクリアしている」「現地建て替えの場合の費用は当初の試算より減るはず」と主張。「人工島が最適だという理屈付けは完全に崩れた」と指摘しました。

また、人工島の交通利便性について市側が都市高速の延伸を条件にしている点について、中山市議は、都市高速の通行止めの多さを指摘して「救急医療は委ねられない」と反論。人工島はこども病院の移転場所として最悪だと厳しく批判しました。

人工島救済で子どもの命を犠牲にするのか

さらに中山市議は、病院移転で土地売却収入を見込んでいた第3セクター博多港開発の資金繰りが行き詰まっていることを示し、「市長は博多港開発の破たん救済と人工島事業推進のためにこども病院を利用したい、子どもの命を犠牲にしてもかまわないというのが本音ではないか」と迫りました。

そして「人工島への移転を強行するようなことになれば、大変な禍根(かこん)を残すことになる。市長だけでなく、推進勢力にも厳しい審判が下ることになる」と警告しました。こども病院の整備場所については「市民の声をふまえ、現地または周辺にすべきだ」と述べました。

市長「答申を配慮。市民への説明を十分する」

市長は、反対署名について「重く受けとめている。様々なご意見があることは承知している」と述べたものの、移転については「総合的な視点から判断する。答申の留意事項に配慮する。市民への説明を十分にしていこう」と述べるにとどまりました。



質問する中山市議